

HEPHAIST®

Housing A

Housing B

それは価値を創造する個性ある集団です。

ΦK

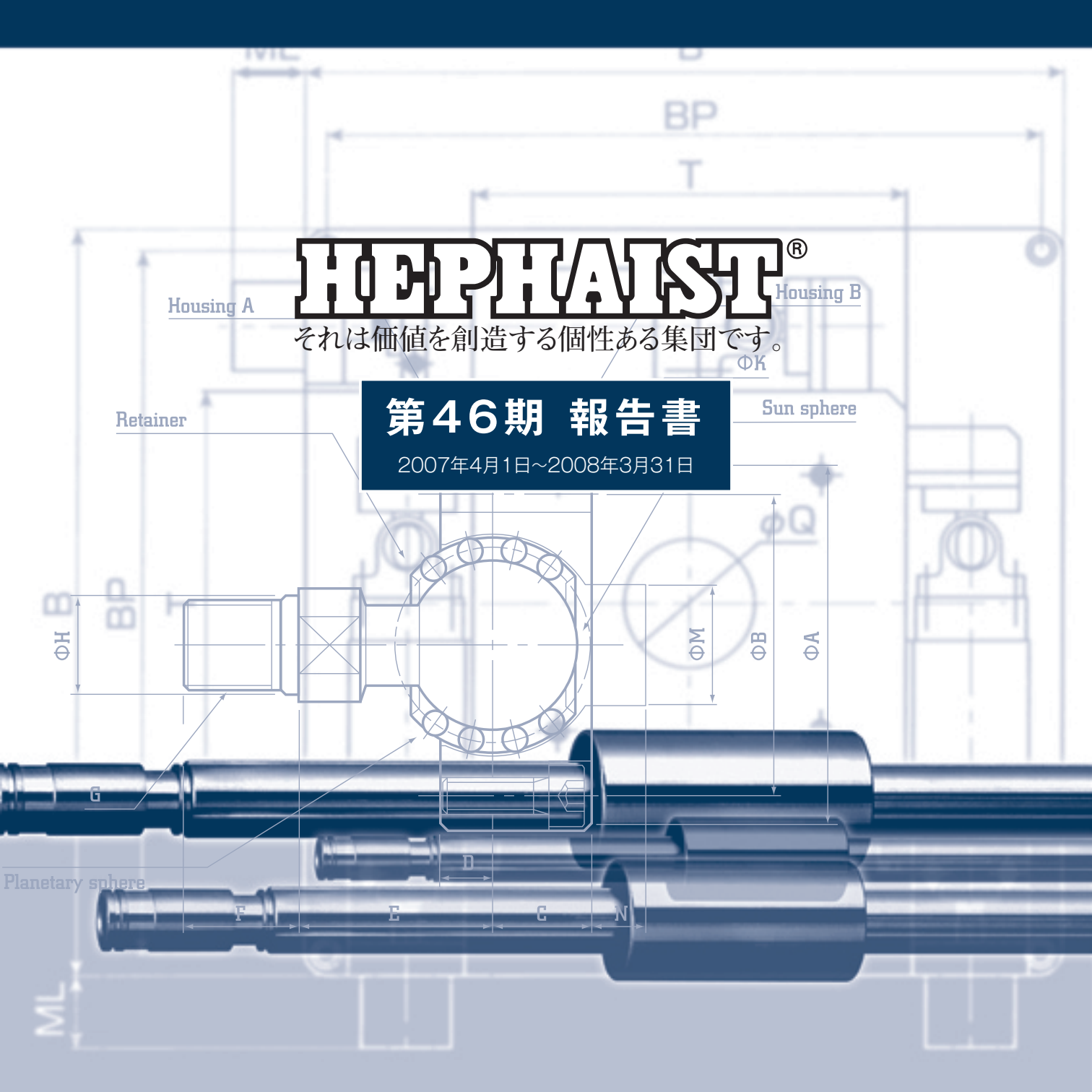
第46期 報告書

2007年4月1日~2008年3月31日

Sun sphere

Retainer

Planetary sphere

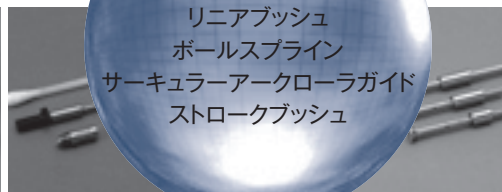


当社は、1962年(昭和37年)の創業以来、リニアモーションベアリングの専門メーカーとして、常に新しいテクノロジーを追求し、多様化するニーズに応えるべき技術力と創造力により高品質・高付加価値製品を提供してまいりました。これからも長年蓄積した

固有技術を活かし、事業の柱となるリニアベアリングなどのリニアモーション、ポジショニングステージなどのシステム製品及びレース用エンジン部品製造に要求される超精密加工の3つの事業領域で企業価値の拡大を目指してまいります。

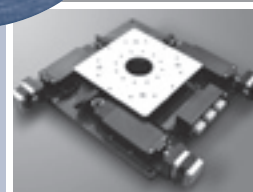
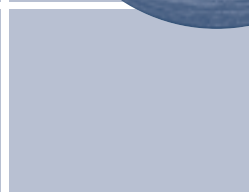
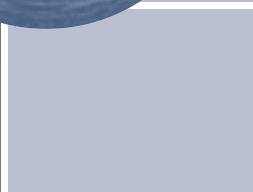
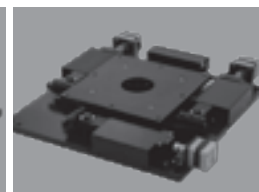
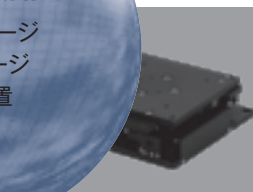
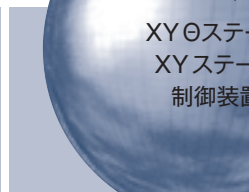
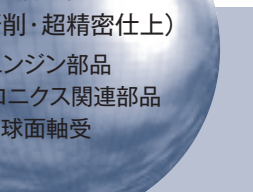
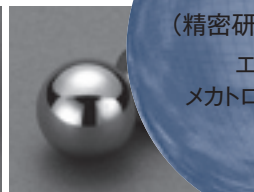
リニアモーション

リニアブッシュ
ボールスプライン
サーキュラーアークローラガイド
ストロークブッシュ



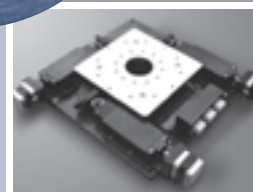
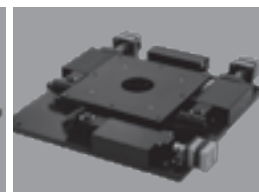
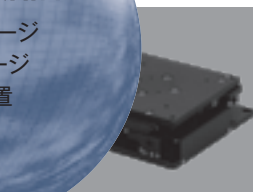
超精密加工

(精密研削・超精密仕上)
エンジン部品
メカトロニクス関連部品
球面軸受



システム製品群

XYθステージ
XYステージ
制御装置



目次

事業概要	1	トピックス	5
株主・投資家の皆様へ	2	株式の状況	6
財務情報	3	会社の概要	6



株主・投資家の皆様へ

代表取締役社長 尾崎浩太

Message

皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。当社第46期報告書をお届けするにあたり、平素のご支援を深く感謝し、ご挨拶申し上げます。

当事業年度におけるわが国経済は、前半は好調な企業業績を背景として景気は緩やかな回復基調で推移したものの、後半以降は、サブプライムローン問題に端を発した世界的な金融市場の混乱や、原油・原材料価格の高騰等により景気後退懸念が強まっております。

このような経済環境のもとで、当社は主力製品の受注減少を補うため、きめ細かな営業活動による主力製品の拡販と、事業の拡大を図っていく上で必要不可欠な製品開発への経営資源の投入を継続しながらコスト削減を推進することにより、業績の回復に努めてまいりました。

しかしながら、当社の主力製品でありますリアベアリングにつきましては、ユーザーである各種産業機械メーカーからの受注が減少し、売上高は1,451,198千円(前年同期比5.0%減)となりました。

エンジンパーツにつきましては、モータースポーツ向けの受注が減少し、売上高は669,507千円(同19.3%減)となりました。

ポジショニングステージにつきましては、液晶・半導体製造装置関連メーカーの設備投資抑制の影響を受け受注が減少し、売上高は131,729千円(同19.1%減)となりました。

この結果、当事業年度の業績は、特にエンジンパーツの販売落ち込みが影響し、売上高は2,252,435千円(同10.6%減)、経常利益は経費の削減・原価低減を推進したものの、売上高の落ち込み分を補う事ができず、167,593千円(同49.9%減)、当期純利益は99,948千円(同49.2%減)となりました。

なお、本年度(第47期)は、配当金4円を予定しておりますが、業績の回復を最大の目標とし、できる限り株主の皆様へ還元してまいります。

今後もヒールハイト精工は、価値を創造する個性ある集団として、創業以来40数年に亘る固有技術と独自性を生かして、新しい時代の要求にお応えしてまいります。

創業精神

「挑戦してこそ好機が生まれる」高度な技術の探求とファインメカニカルへの飽くなき情熱が私たちの誇りです。「義の心」をもって真摯に応え、「新たな価値の創造を通じて、社会に貢献できる企業を目指す」「社員共生」「安定成長」という3つの経営基本方針をもとに、創造開発型企業を目指していく所存です。

価値を創造する個性ある集団

21世紀の多様で高度なニーズに対して、「ヒールハイトならではの」新しい感覚で挑む個性ある集団でありたいと、考えております。常に一步先の技術革新に挑戦し、社会に求められること、技術力と創造力による貢献をして参りたいと存じます。

終わらなき挑戦、ついでない情熱

当社は創業以来、一貫して直線運動機構の研究開発に取り組み、独自の地位を築いて参りました。当社の強みは、設計思想でもある「軽薄短小」であります。今後はさらに、固有技術でもあります球面加工技術等を駆使して、「終わらなき挑戦」を続けてまいります。

また直動ベアリング以外の新たな製品開発にも「ついでない情熱」を燃やし続けてまいります。

未来から押し寄せる無限の波、新時代の多様で高度なニーズに限りなくチャレンジしてまいります。

株主・投資家の皆様には、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2008年6月



財務情報

Financial Statements

貸借対照表

科目	46期	45期
	平成20年3月31日	平成19年3月31日
資産の部		
流動資産	1,426,618	1,776,412
現金及び預金	207,901	307,102
受取手形及び売掛金 ①	716,114	988,025
たな卸資産	476,574	445,977
繰延税金資産	17,615	18,612
その他	8,980	17,585
貸倒引当金	△568	△890
固定資産	2,504,617	2,576,940
有形固定資産	2,365,444	2,440,747
建物及び構築物 ②	1,049,524	1,105,057
機械装置及び車両運搬具	210,507	223,921
土地	1,063,504	1,063,504
その他	41,907	48,263
無形固定資産	5,264	5,663
投資その他の資産	133,908	130,530
投資有価証券	4,166	7,596
繰延税金資産	108,496	104,185
その他	21,245	18,748
資産合計	3,931,236	4,353,353

単位：千円

科目	46期	45期
	平成20年3月31日	平成19年3月31日
負債の部		
流動負債	603,325	971,019
支払手形及び買掛金 ③	362,251	450,752
1年以内返済予定長期借入金	112,760	261,880
未払法人税等	48,000	70,000
その他	80,314	188,387
固定負債	394,752	502,576
長期借入金	127,700	240,460
退職給付引当金	34,733	33,071
役員退職慰労引当金	232,318	229,045
負債合計	998,078	1,473,596
純資産の部		
株主資本	2,935,313	2,879,079
資本金	717,495	717,495
資本剰余金	664,455	664,455
利益剰余金	1,553,363	1,497,129
評価・換算差額等	△2,155	677
その他有価証券評価差額金	△2,155	677
純資産合計	2,933,157	2,879,757
負債及び純資産合計	3,931,236	4,353,353

貸借対照表のポイント

① 受取手形及び売掛金の減少は、売上の減少に加え、前期末日の売掛金の回収が金融機関休日により当期に繰り越されたことによります。

② 建物及び構築物の減少は、減価償却によるものです。

③ 支払手形及び買掛金の減少は、前期末日決済の支払手形が金融機関休日により当期に繰り越されたことによります。

損益計算書

単位：千円

科目	46期	45期
	平成19年4月1日から平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
売上高	2,252,435	2,520,338
売上原価	1,438,438	1,551,501
売上総利益	813,997	968,836
販売費及び一般管理費	642,663	628,217
営業利益①	171,333	340,618
営業外収益	2,101	2,528
営業外費用	5,841	8,415
経常利益	167,593	334,731
特別利益	5,322	78
特別損失②	18,544	134
税引前当期純利益	154,371	334,675
法人税、住民税及び事業税	55,808	139,913
法人税等調整額	△1,385	△1,886
当期純利益	99,948	196,648

キャッシュ・フロー計算書

単位：千円

科目	46期	45期
	平成19年4月1日から平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー①	338,899	301,316
投資活動によるキャッシュ・フロー②	△132,855	△62,688
財務活動によるキャッシュ・フロー③	△305,244	△102,090
現金及び現金同等物の増減額	△99,201	136,536
現金及び現金同等物の期首残高	248,879	112,342
現金及び現金同等物の期末残高	149,678	248,879

株主資本等変動計算書 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

単位：千円

	株主資本								評価・換算差額等		純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
		資本準備金	資本剰余金合計		その他の利益剰余金		利益剰余金合計					
				特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金						
平成19年3月31日 残高	717,495	664,455	664,455	10,000	2,220	1,130,000	354,909	1,497,129	2,879,079	677	677	2,879,757
事業年度中の変動額												
特別償却準備金の取崩し					△564		564	—	—			—
剰余金の配当							△43,715	△43,715	△43,715			△43,715
当期純利益							99,948	99,948	99,948			99,948
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)										△2,832	△2,832	△2,832
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	△564	—	56,797	56,233	56,233	△2,832	△2,832	53,400
平成20年3月31日残高	717,495	664,455	664,455	10,000	1,656	1,130,000	411,706	1,553,363	2,935,313	△2,155	△2,155	2,933,157

損益計算書のポイント

- ① 営業利益の減少は、売上減少に加え、売上総利益率の低下及び販売費及び一般管理費の増加によるものです。
- ② 特別損失の増加は、固定資産売却損及びたな卸資産除却損によるものです。

株主資本等変動計算書のポイント

純資産の増加は、当期利益による利益剰余金の増加によるものです。

キャッシュ・フロー計算書のポイント

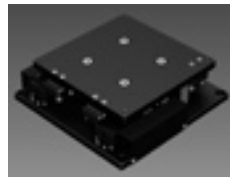
- ① 営業活動によるキャッシュ・フローの増加は、売上債権が減少したことによるものです。
- ② 投資活動によるキャッシュ・フローの減少は、有形固定資産の取得による支出が増加したことによるものです。
- ③ 財務活動によるキャッシュ・フローの減少は、長期借入金の返済(純額)によるものです。

THK 株式会社に新規アイテムをOEM供給

当社の主要販売先でありますTHK株式会社に当社開発製品を新たに2製品OEM供給いたします。以下のとおり名称を「超薄型アライメントステージCHX形」「ガイドボールプッシュLG」として2007年12月に新製品としてリリースされました。

これからも協業関係を深めてまいります。

超薄型アライメントステージCHX形

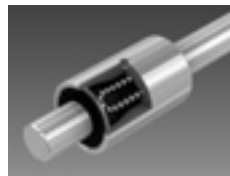


特長

- ①超小型 テーブルサイズ100mm～200mm
- ②超薄型 予圧型フレキシブル平面軸受を採用。同一平面上3箇所駆動モジュールを配置することにより超薄型構造を実現。

用途：光学機器、医療機器、超精密機器の位置決めステージなど

ガイドボールプッシュLG



特長

- ①外筒と軸にサーキュラーアーク溝を4条配置することで回転止め機能を有します。
- ②リニアプッシュと寸法互換：外筒はリニアプッシュと同じ外径寸法となっており、容易にリニアプッシュと置き換えが可能です。
- ③すきま互換：外筒と軸は互換性を有し、それぞれ自由に組み替えることができます。

④高負荷対応：サーキュラーアーク溝を有することで、リニアプッシュに比べて高負荷荷重を許容できます。

用途：チップマウンタの量産ライン、産業用ロボット、OA機器及び測定器など

展示会に出展

当社は、年に数回展示会に出展し、長年にわたり蓄積した固有技術を生かした小型で高精度な製品を発表しております。

更にこれからは当社既存製品から派生した製品開発を推進し、製品の熟成を図り、既存製品による市場深耕を狙いとした製品のPRを進めてまいります。

主な展示会出展は以下の通りです。

2007/6 「第11回 機械要素技術展」出展



2007/12 「SEMICON Japan 2007」出展



リニアプッシュの秋田工場一貫生産の本格稼働開始

2008年4月からリニアプッシュの生産を秋田工場に集約し、一貫生産(加工、組み立て、最終検査、出荷)を本格稼働いたしました。リードタイムの短縮と仕掛品在庫の削減を目的としながら、その他輸送コスト削減効果も見込んでいます。

また、同時に、生産の自動化等インフラ整備も進め、業務の有効性と効率性を高め環境の整備も行ってまいります。





株式の状況

Stock Information

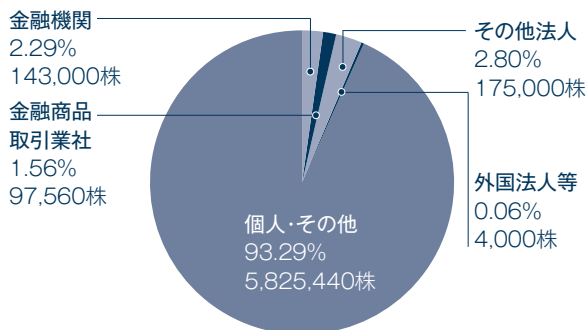
株式の状況 (2008年3月31日現在)

- 会社が発行する株式の総数……………18,720,000株
- 発行済株式の総数……………6,245,000株

大株主 (2008年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
尾崎 久壽彌	1,429	22.88
尾崎 浩太	810	12.98
尾崎 文彦	708	11.34
村上 潔	160	2.56
日本生命保険相互会社	100	1.60
ヒーハイト精工社員持株会	65	1.04
夏 恒	61	0.97
松山 史朗	50	0.80
THK 株式会社	50	0.80
富岡 昭	43	0.68

所有者別株式数 (2008年3月31日現在)



会社の概要

Corporate Data

会社の概要 (2008年3月31日現在)

- 社名 ヒーハイト精工株式会社
- 本社 〒350-1151
埼玉県川越市今福580番地1
- 埼玉工場 〒350-1151
埼玉県川越市今福580番地1
[敷地面積16,677m² 建物面積7,589m²]
TEL 049-273-7000(代表)
FAX 049-273-7001
- 秋田工場 〒010-1653
秋田県秋田市豊岩小山字下田454番地
(豊岩工業団地内)
[敷地面積36,292m² 建物面積4,525m²]
TEL 018-828-0111
FAX 018-828-2231
- 設立 昭和37年7月19日
- 資本金 717,495,000円
- 従業員数 91人

役員 (2008年6月26日現在)

代表取締役会長	尾崎 久壽彌
代表取締役社長	尾崎 浩太
取締役	柴田 幸子
取締役	小川 好文
取締役	尾崎 文彦
常勤監査役	済木 條平
監査役	富岡 昭
監査役	北川 尚 (2008年6月26日新任)

株主メモ

- 決算日 毎年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月
- 期末配当金 毎年3月31日(中間配当を行なう場合、毎年9月30日)
支払株主確定日
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
フリーダイヤル0120-232-711
- 同事務取扱所 三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店
- 同取次所 1,000株
- 単元株式数 1,000株
- 上場証券取引所 ジャスダック市場
- 証券コード 6433

単元未満株式の買取り

単元未満株式(1,000株未満の株式)をご所有の株主様は、単元未満株式の買取り請求(当社に対する売却)が可能です。単元未満株式の買取り請求のお手続きをご希望の株主様は、上記事務取扱所までお問合せください。

配当金受領方法のお知らせ

当社配当金の受領方法は次のいずれかをご利用いただけます。
(1) (ゆうちょ銀行)配当金領収証による受領
(2) 銀行預金口座自動受取りによる受領

※受領方法の変更をご希望の株主様は、上記事務取扱所までお問合せください。

(お知らせ)

配当金振込指定書用紙のほか、当社株式に関する事務手続き用紙(お届出の住所・印鑑・姓名等の変更届、単元未満株式買取り請求書、名義書換請求書等)のご請求につきましては、上記株主名簿管理人にてお電話並びにインターネットにより24時間承っておりますので、ご利用ください。

(本店証券代行部)	フリーダイヤル0120-244-479
(大阪証券代行部)	フリーダイヤル0120-684-479
インターネットアドレス	http://www.tr.mufg.jp/daikou/

※本誌には、ヒーハイト精工の将来に関連する記述があります。この前提及び将来予測の記述には、経営を取り巻く環境の変化などによる一定のリスクと不確実性が含まれていることにご留意ください。



<http://www.hephaist.co.jp/>

ヒーハイト精工株式会社

JASDAQ

証券コード6433